

たのしみ クリスマス！

きかんぼのちいちゃいもうと その1

ドロシー・エドワーズ さく 渡辺 茂男 やく 福音館書店 933-E



わたしのいもうとは、クリスマスがちかづくといよろこびますが、サンタ・クロースのことがきらいでした。ある日、ツリーをみにおかあさんといもうとと、わたしの学校へいきます。教室のクリスマス・ツリーには、たくさんのおもちゃがぶらさがっていました。いもうとは、おもちゃをながめ、青いドレスをきた人形をみてこれがほしいといいました。『サンタ・クロースなんてだいきらい』

ヘラジカがふってきた！

アンドレアス・シュタインハーフェル 著 鈴木 仁子 訳

早川書房 943-S



クリスマスまであと二週間のある晩、ぼくの家天井をつきやぶり、ヘラジカのミスター・ムースが落ちてきました。なぜ落ちたのかたずねると、足をすべらせてしまったといいます。サンタとトナカイがクリスマスに出動するまえの試験飛行をしていたのです。ぼくたちは、けがをしたミスター・ムースが元気になるまで、家のガレージにとめることにしました。

まほうのよるに

はじめてサンタのそりをひいたトナカイのおはなし

マット・タバレス 作 まえざわ あきえ 訳 世界文化社 E-タ



フィネガンどうぶつサーカスにいるトナカイのダッシャーは、ママとパパのうまれた北極にいてみたいとおもっていました。しかし、フィネガンさんはゆるしてくれません。風がふきあれるあるばん、ダッシャーは出入り口がひらいていたかこいをとびだし、北極星にむかって走ります。すると、森のおくからすずの音がきこえ、ちかづく馬とおじいさんがおはなしをしていました。



くんちゃんとふゆのパーティー

ドロシー・マリノ さく あらい ゆうこ やく ペンギン社 Eーマ

さむいせつになり、こぐまのくんちゃんをはじめてゆきをみました。つもったゆきにあしあとをつけたり、ゆきのたまをころがして、ゆきぐまをつくってあそびます。そして、きにとまっていたことりに「ゆきってすてきだね」とこえをかけると、ことりは「ゆきにおおわれてしまうとたべものがみつからないんだよ」とこたえました。そこで、くんちゃんはどうぶつたちのためにパーティーをひらくことにします。



クリスマスまであと九日 セシのポサダの日

エッツ&ラバスティダ 作 たなべ いすず 訳 富山房 Eーエ

ポサダは、クリスマスの^{ここのか}九日まえから、まいばんするとくべつなパーティーで、ぞうや^{ほし}星の^{かたち}形をしたピニャタをつるしてもらえます。ようちえんにかよっているセシは、はじめてポサダをしてもらうことになりました。ポサダが^{たの}しみなセシは、おにいさんのサルバドールやおてつだいさんのマリアに、あたしはポサダまでどれだけまてばいいのとたずねます。



子うさぎましろのお話

三好 碩也 絵 佐々木 たづ 文 ポプラ社 Eーミ

クリスマスがやってきて、^{しろ}白うさぎの^こ子“ましろ”は、サンタ＝クロースから、^{きた}北の^{くに}国の子^こどもたちのなかでもいちばんさきにおくりもののおかしとかざりをもらいました。ところがましろは、おかしをたべてしまいます。おくりものは^{いっ}一かいきりしかもらえません。そこで、もういっちょおくりものをもらうために、すみでからだをくろくして、サンタ＝クロースにあいにそっとうちをぬけだしました。



飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー 作 高橋 健二 訳 岩波書店 943ーケ

クリスマス^{きゅうか}休暇がちかづき、^{きしゅくがっこう}寄宿学校の^{こうとうかいちねんせい}高等科一年生マルチンは、^{まいにち}毎日クリスマスの^{いわ}お祝いに^{えん}演じるしばいのけいこをしていました。ある日、^ひ母から^{いは}手紙が^{てがみ}届きます。家に^{とど}帰る^{いえ}旅費が^{かえ}はいって^{りょひ}いると思^{おも}ったマルチンが^{ふう}封を^{てがみ}きると、手紙には^{りょひ}旅費が^{くめん}工面できず、クリスマスは^{がっこう}学校に^{のこ}残って^かいてもらわなければならないと書かれていました。